

#### 第4回講義 自治体DX「デジタルの力を活用した地域経済の活性化に向けて」第1回

(講師：内閣官房デジタル田園都市国家構想実現会議事務局 参事官 太田 哲生先生)

今回のコメントシートの中で、以下の「講義に対する意見、疑問・質問」がございました。

【質 問】 今回の講義を通じて、デジタルの力を活用した地域経済の活性化に向けて以下の3点の良い点と課題や疑問が挙げられると感じました。

● 良い点は以下の3点です。

第一に、デジタル田園都市国家構想総合戦略の基本的考え方に掲げられている「テレワークの普及や地方移住への関心の高まりなど、社会情勢がこれまでとは大きく変化している中、今こそデジタルの力を活用して地方創生を加速化・深化し、『全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会』を目指している」点です。

第二に、計画を立てて終わりでなく、全国で取り組まれてきた中で蓄積された成果や知見に基づき、改善を加えながら推進していくことが重要とされている点です。

第三に、デジタル実装の前提となる取組として誰一人取り残されないための取組を国が強力に推進しようとしている点です。

● それぞれの良い点に対する課題や疑問は以下の3点です。

第一に、デジタルを活用した地域の課題解決や魅力向上に向けた事業を行う地方公共団体に対しその事業の立ち上げに必要な経費を支援する際に、マイナンバーカードの普及促進など政府の重要施策を推進する観点から新たなメニューや優遇措置を講じているため、「マイナンバーカードの交付率を上げること」＝「デジタル化の推進」と誤認する可能性があるのではないかという点です。 たしかに、

- ① マイナンバーカードの普及促進は、政府の重要施策の一つであり、それを推進するために、デジタル化の推進という政府の重要施策の一つを抱き合わせて行うことは一石二鳥のように感じられますし、
- ② 講義内でもあったように、デジタル化の推進にあたって本人確認の必要になってくる場面においてマイナンバーカードが有用であるとは思いますが。

しかし、①自治体のデジタル推進の担当者が、何が自分の自治体で予算の制約のあるなかで優先的に取り組むべきなのか分析・検証した結果選んだ政策がマイナンバーカードの普及率が低くてできないということになると、最適な政策を打ち出せないということになりかねないですし、②マイナンバーカードの普及率が低くてマイナポータルを活用できず、民間のシステムを利用してマイナンバーカード以外を使って本人確認するのに予算を使ってオンライン化せざるを得ない状況にある自治体があるのにもかかわらず、あたかも本人確認するのにマイナンバーカードが必要不可欠といわんばかりに、優良事例を支えるサービス/システムの横展開もマイナンバーカードを活用したサービスを優先的にカタログ化されているのではないかと感じてしまいます。

以上のことから、複数の重要施策を同時並行的に進めていくことは効率的であるよう

に思える一方、マイナンバーカードの交付を前面に押し出してしまうとデジタル化につなげるという最終目標を見失ってしまう可能性があると思います。また、本来横展開をし自治体が協同して重要施策に取り組んでいこうとする機運でなく、自治体にマイナンバーカード交付競争をさせ、交付金獲得のために争わせてしまう形になってしまっているのではないでしょうか？

**第二に、便利さの追求の結果、人類にとって誤った方向に進んでいないかという判断は誰がどのようにするのかということです。**例えば、（１）洗濯について考えたときに、昔は多くの人は、たらいなどを使って手洗いをしていましたが、技術の進歩により洗濯機で洗濯をするようになりました。多くの人が手洗いがいいと感じていたら洗濯機は現代に残っていたでしょうか？このことから推察すると、「より多くの人が便利と感じる」とそれは技術として残るのではないかと考えられます。これを踏まえて、（２）自分たち地域戦略人材塾の受講者として考えたときに、例えば、生成ＡＩを使って、研修を受けさせて要約を作ってもらって、コメントシートも自分の意見を代弁してもらおうとなったとしてそれが技術的に可能となった場合に、便利であることは時間がない人を中心に多くの人が認めることになるので技術として残るのでしょうか？確かに、現在の生成ＡＩの技術であってもYouTubeなどの要約ができるので近い将来研修も要約してコメントシートに書くにふさわしい内容を提示してくれることとなり、日々の多忙な業務終了後に時間が研修の時間をあまり取れない人にとっては便利になることでしょう。しかし、便利になった一方で自分たちは研修を通じて得られていたものを同時に失うことになるのではないのでしょうか？例えば、コメントシートを書くために研修を熱心に聞いて考えたりすることや、締め切りまでに間に合うようにタイムマネジメントを行うことはなくなります。このことから推察すると、「より多くの人が便利と感じて、失うものよりも得るものの方が大きいと感じる人が多い」とそれは技術として残るのではないかと考えられます。これを踏まえて、（３）将来、介護や子育てをロボットがすべて担ったり、恋人がロボットとなった場合を考えたときに、8050問題などの高齢化社会の問題や、保育所の待機児童問題、少子化問題などが一気に解決して便利になることでしょう。このとき、全国どこでも誰もが便利で快適に暮らせる社会と感じて、失うものよりも得るものの方が大きいと感じる人が多かったら、それは技術として残ることになるのでしょうか？技術の進歩がこの段階まで来たら、当然技術的には、政治家ロボットが議員をやることができ、核兵器の発射のボタンもロボットが押せる時代となっていると思われれます。こうなってくると、少なくとも人間と機械の共存していく必要があるとともに、人間と機械の差が極めて小さいものとなっていくことが予測されることから、「得るもの」の技術と引き換えに「失うもの」が、「人間である心」でないことを祈るばかりです。

以上のように、人類にとって誤った方向に進んでいないかという判断は誰がどのよう

にするのかということについて私は、将来のロボットではなく、現代の子どもたちであってほしいです。講義の中で教育現場においてデジタル化の普及が進んでいるというお話がありましたが、便利さを追求するにあたって、機械に利用されるのではなく、利用するための思考力や倫理観も合わせて教育していくべきと考えます。

第三に、国民が、デジタル化社会に向けて取り残されないように国がしてくれたと感じるのは、自身に関わる目に見えるものに限られるのではないかということです。

- (1) デジタル実装の前提となる取組としての誰一人取り残されないための取組の資料の中の名称を見て内容を説明することは、自治体職員であっても難しいように感じるので国民がデジタル化社会に取り残されないように国がしてくれたと感じるのはより難しいのではないのでしょうか？ また、
- (2) 一般に国民が自身のためにやってもらえたと感じるのは、自身が必要なもので自動的に変わるもののような気がします。例えば、保険証の色が変わってであるとか、紙がカードに変わったなどであり、特段反発もなく受け入れられやすいですし、自治体職員としても説明しやすいと思います。こうしたことを勘案すると、今となっては後付けにはなりますが、例えば、マイナンバーカードを取得させて様々なものを紐づけしていくのではなく、自身が必要な保険証や運転免許証にマイナンバーカードの機能が付与されるという方が反発もなく交付できたのではないかと思います。以上のように、このままでは国民が、デジタル化社会に向けて取り残されないように国がしてくれたと感じることなく、多くの国民が取り残されてしまうことになるのではないのでしょうか？

上記課題や疑問についてご意見いただければと思います。よろしくお願いいたします。

【回答】

(以下は登壇者である太田氏の個人的な見解であることを予め御承知おきいただきたいとの元、回答をいただきました。)

○第1の質問について

- ・御指摘のように、真に重要なことはデジタル実装の促進を通じて地域の社会課題の解決を図ったり、住民の皆様の利便性やWell-beingを向上したりすることであり、マイナンバーカード（以下「MNC」）はあくまでも手段にすぎません。このため、MNCの交付率向上が自己目的化してしまうことは避けなければならないと思います。
- ・他方、デジタル実装の真価を発揮するためには、MNCの活用を通じて本人認証やデータ連携を行うことが有効であり、そのような観点から政府としてはその普及・促進のため、自治体の皆様の御助力もいただきながら、様々な方策を講じているところで
- ・なお、デジタル田園都市国家構想交付金・デジタル実装タイプの採択に際して、MNC交付率を評価することとしています（Type1：勘案、Type2・3：全国平均以上

等）、これはMNCの交付率が高い方がデジタル実装の効果が発揮されやすい（政策効果が高い）ことを踏まえたものであり、自治体間における過度な競争を煽ることを目的としたものではないと承知しております。

- ・ いずれにしても、MNCの必要性や有用性について十分御理解・御納得をいただけるよう、関係省庁が丁寧に説明等を行うことが重要であると考えます。（講師：太田）

#### ○第2の質問について

- ・ 非常に深遠な御質問であり、十分に御納得いただける回答をするだけの知見を持ち合わせておりませんが、一般論として申し上げれば、有識者・専門家に御協力いただきながら公的機関が一定の指針等を提示するとともに、それを踏まえつつ社会全体で議論を行い、その技術をどのように利用すべきか（すべきでないか）について、社会的な合意を形成していくということではないかと思います（例えば、教育における生成AIの活用についても、文部科学省が示した指針を踏まえ、現在、教育現場で試行や議論等が行われているものと承知しています）。
- ・ 新しい技術にメリット・デメリットの両面があることは常ですが、デメリットを適切にコントロールしつつ、メリットを最大限に活かしていくという柔軟かつ前向きな対応が求められると考えます。（講師：太田）

#### ○3の質問について

- ・ 資料や用語が一般の方々に分かりにくいのではないかと御指摘については真摯に受け止めさせていただき、より分かりやすい御説明に努めてまいります。
- ・ 「保険証や運転免許証にMNCの機能が付与されるという方が反発もなく交付できたのではないか」との御指摘については、すでに住民の方々になじみがあるという観点でいえば、確かにそのような側面があるかもしれません。しかし、マイナンバー制度の趣旨は国民一人一人に付番された番号をもとに各制度の下でバラバラに管理されている情報を連携させ、効率的な行政サービスの提供等を行うための基盤とするというものであり、加入（保有）状況、カードの形状等がバラバラな制度のものにMNCの機能を付与するというのは、技術的・実務的に難しいのではないかという気がいたします。（講師：太田）

#### ● お礼

今後の講座の案内において、「フューチャーデザイン」の説明を聞く前は、全然興味がなく、デザイン論の話かと漠然と思っていましたが、全然違って少し興味が湧きました。

人は自分の興味のないことは全然意味も分かっておらず、特に最近、①ナッジ、カーボンニュートラル、マイナンバーカードなどカタカナが多いものや②SDGs、EBPMの

ような綴りもわからず表記誤りしそうなものも多くあり、こうしたものの意味をすべてわかって活用できている自治体職員は全国でどれくらいいるのだろうと考えたときに、当然自分のような興味のある分野のことしかわからない人が多いのであろうと思う一方で、当然自治体職員として携わっていない分野であっても時代の最先端に行くには教養としては身に着けておくべき内容であると思っています。自治体職員が何か最先端の技能や技術を学びたいと感じたときに「地域戦略人材塾」は学びと成長の機会を与えていただけのいい場所と感じています。今年度もありがとうございました。また来年度も受講の機会に恵まれたら受講したいと思います。

#### 【ご意見】

- ・私は今回の講義を終えて、アウトプット及びそれに対するフィードバックの重要性に気づきました。「さようなら」と事務局の方から手を振られたときに、いつもなら「今日も頑張った、また次回も頑張ろう」と充実感をもって Zoom を閉じるんですが、今回は「え？もう終わりなの？何もしゃべったり質問もしていないよ。」と少し物足りなさを感じました。なぜこういった感情に至ったのか自問したところ、いつもは講義内で質問して講師からフィードバックを受けたり、前回のように自治体同士で話をして学びの共有や深め合う時間があったのに対して今回はそうした時間がなかったからだと思いました。もちろん、事務局の方から「質問ないですか」と聞かれ、その場での考えがまとまらず質問に至らなかったのは自分ですし、終了時間の関係もあるので毎回自治体同士の意見交換をする時間を設けてほしいというわけでもないのですし、こういったコメントシートでアウトプットする機会や他の自治体からの意見を聞ける機会を講義外でも設けていただけていることは本当にありがたいことであるので不満はないのですが、講義を通じたインプットだけでなくアウトプット及びそれに対するフィードバックの重要性について改めて気づけて貴重な回となりました。

#### 【回 答】

今回は講義が中心で、次回及び次々回につないでいただく講義が中心でしたので、限られた時間の中、討議や情報交換の時間がございました。

次回、次々回の中で限られた中ですが、お時間を取りたいと考えています。（事務局）

#### 【ご意見】

- ・当日参加しないので意見する立場にはないのかもしれませんが、当市に当てはめた場合、各自外部部局も含めて受講しているため、一か所に集まって物産品を囲んで情報交換をすることは困難であるように思います。

#### 【回 答】

承知いたしました。どのような方法で実施するか、もう少し具体的にになりましたら改めて相談させていただきます。（事務局）

その他、皆さま方の感想などを以下に取りまとめましたのでご覧ください。

- ・東京圏への転入超過は女性の方が多いこと。女性が地元から出ていく要因を整理することで、実情に応じた効果的な人口減少対応策が講じられるように思う。
- ・他市の活用事例の紹介が多い方がいい。

・東京圏への転入超過数は女性のほうが多いということで、女性に地方の魅力を感じてもらえる施策を打っていく必要があると感じた。地方へ移住、就職、結婚、出産、子育てと、一体型の支援ができればいいと思う。

・デジタル田園都市国家構想総合戦略に基づき、地方において進めている様々なデジタルを活用した施策について、スタートして終わりではなくしっかりと振り返りを行いながら進めていくことの大切さを改めて感じたので、取り入れていきたい。

・私たちが住んでいる東北地方では、今後益々人口減少のスピードが加速するので、デジタル化を活用した方策について早急に取り組まなければならないことを改めて感じました。

・デジ田交付金について今年度も活用させていただいておりますが、引き続きデジタル実装タイプを活用していきたいと思います。

・マイナンバーカードをどのように業務に使っていけばいいのか分からない。

・書かない窓口が出来るのではないかと思った。（今後活かそうなこと）

・DXを取り入れていかないといけないのは分かるがマイナンバーカードを使つての話もあり、診察券ですらマイナンバーカードの読み取り機械があるのに歯医者では保険証を提出している始末のなか、行政に書かない窓口に使いましようと言われても説得力がない。

・始めるなら書かない窓口からと思う。（今後活かそうなこと）

・デジタル化など、これからの時代に必要なことだと思います

・東京都区部、中核市においても老年人口が増加し、年少・生産年齢人口が減少していることおよび、東京圏への転入超過数は圧倒的に女性の方が多いことを今回、知った。

また、Digi 田甲子園の取り組みがなされていたことを今回知った。

・自分には講義内容が難解で、いま一つ理解できずに終わってしまった。予備研修が必要であった。

お忙しい中、皆さまからご意見、感想等を頂戴し、ありがとうございました。

来週もよろしくお願いいたします。

地域戦略人材塾 事務局